

## 小集団への目標設定の効果の検討

立命館大学大学院  
応用人間科学研究科  
対人援助学領域  
障害・行動分析クラスター  
上田 捷悟

本研究は実験室設定を通してグループ内での個人目標の効果の検討を行った。参加者は大学生・大学院生で、集団目標群、集団＋個人目標群、集団＋参加個人目標群、統制群のいずれかに割り当てられた。課題はブロック組み立て課題で、3人で1グループとして実験は実施された。各群間でのパフォーマンス間に有意な差が見られなかったが、目標へのコミットメントにおいては集団＋参加個人目標群においていずれの群よりも有意に高い結果となった。また、本論の結果から見出された目標設定への参加と目標へのコミットメントの関係を、関係フレーム理論(Relational Frame Theory)から考察した。さらに、対人援助的な観点から、本論の結果を実践の場面で何をどのように活かすことができるのか議論を行った。